

んのですが、之がなかなか思ふ様に行かないので困ります。

以前は一流の請負人に工事を請負はせると充分立派に仕上げたもので、それで安心出来たのですが、今日では競争入札の結果、非常に安價で請負ふものですから、たとへ一流の請負者であつても、仕事はどうしても粗末になり勝ちなのです。示方書に書いた仕上り程度と云ふものが、所謂程度問題であつて、金をかければかけただけよき仕上りが得られるわけですが、無暗に安値で請負ふから豫算はあるのに充分な仕事が出来ないと云ふ結果になります。

この困つた傾向は、今日競争入札の行はれ

る至る處の工事で問題となつてゐる様ですが特にこの建築の様な性質を持つものに對しては、今後遠からずの内に、合理的解決方法が講じられねばならぬと思ひます。

○

なる程、後代何千年の後までも残さるべき國家の代表的建築であるから、豫算が餘つてゐ、充分な仕事をしたにも拘はらず、それが使用出来ないと言ふのは大きな矛盾と云はねばならぬ。而して特に博物館造營工事に就ては速かにこの矛盾を解消して、後代に傳へるべき藝術の殿堂としての偉容を持たしめねばならぬと考へる。學界及び業界にとつて之が解決は一日もゆるがせに出来ぬ問題であらう。記者は一々北村課長のお困りの事情に共鳴して辭した。

## 耐震構造の過去及將來を想ふ

帝大地震研究所 齊 田 時 太 郎

耐震構造の研究は其進歩發展の大に見るべきものありとはいへ、深く地震動及構造物の振動性能を解明せざる限り、其理論たるや根底薄弱にして自信ある設計を不可能ならしめ従て曖昧なる安全率を用ひ、内に經濟的外に耐震的不満と不安とを残しつつあるのが現在の状態である。因て過去の回想も將來への希望もこの不満不安を中心として述べらるべきである。

關東大震災は、概して鐵骨及鐵筋コンクリート構造の耐震性大なるを示し、技術界に多大の信頼を與へると同時に、コンクリートの強度に就て、從來の安價なる過信の夢を醒めしめたるも亦震災の大なる賜と云ふべきである。其結果強度増進の機運は理論的及經濟的要求にあらはれ、特に工事畫報社の貢献も少くなかつたのである。

地震動及構造物の振動性能の闡明は根底的にして、其等の研究の盛ならんことを望むは勿論なるが、今當面の研究事項として次の數

項をあける。

(一) 鐵筋コンクリートの耐震的不測の危険を顧慮して、從來の單なる許容應力に對する平衡安定の理論を進んで破壊現象までに及ぼすこと。

(二) 鐵骨を入れた鐵筋コンクリート構造に於て、鐵骨、鐵筋の負擔すべき應力を解明し、合理的經濟的設計の指針を與へること。

(三) コンクリートの自重を輕減することに就ての工夫。

(四) 建物の平面中心と自重の中心との一致せざるときの振力分布の解決。

(五) 目下深層地階を有する建物の出現せんとするにあたり、地表と地中との地震動の相異及從來の土壓理論の改善。

(六) 土木建築構造の研究に於て實物及模型による實驗の盛に行はれて理論と實驗との融合。

(以上)